

『「また必ず合おう」と誰もが言った。』に関わる全ての方々へ

無料学校上映会にご協力いただいた全ての方々へ

静岡市立竜爪中学校の教員をしております。武藤寿彰と申します。

このたびは、クラウドファンディングによる無料学校上映権をいただきありがとうございました。

12月10日（木）に全校生徒389名と保護者を招いて、本校体育館にて上映会を行いました。

劇場での上映に比べて音響的には不十分だったにも関わらず、バリアフリー上映であったため、多くの生徒が内容をきちんと把握し、自身の生き方についてしっかり考えることができました。

また全校生徒で同じ映画を鑑賞する機会は、通常ではなかなかなく、その後も共通の話題として語る
ことができるのもありがたいことだと思いました。

生徒の感想を同封しますので、お読みいただけましたらありがたいです。

微力ながら皆様の活動を応援していきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

平成27年12月16日

静岡市立竜爪中学校

武藤寿彰

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

この映画は主人公がいろいろな人の温かさによって変わっていくという物語でした。みんなとても優しく、おにげだしてほしかったけど、みんなとても優しくあたたかい気持ちになりました。みんなとても主人公にいろいろな人生の教訓をたたきこんでくれて、それがなければ主人公は変わらなかったと思うから、よかったです。思いました。出会った人みんなつらいことをかかえていたけど、それをのりこえて主人公を助けてくれた、ということは、強い人にしかできないことだからすごいなと思いました。私も今はないけど、なにかかべにぶつかったり、つらい思いになる時がきつとありますでも、この映画に出てきた人達のように変わっていくという意志があれば変われるので、もしそんなことがあったときはこの映画を思い出してがんばりたいと思います。この映画からいっぱい勇気をおえてよかったです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

主人公は最初は、うそばかりついて、自分で自分のことを「まかして、人に自分を見せようとしていたけれど、故をい、色々なことを学び、色々な人あって自分自身で変わっていききました。それを見て、何とでも、自分で色々なことを学び、自分で自分を変えていかなければならないということがわかりました。今まで私は二度会わない人なんていないから、「さよなら」を言うことはつらくなかったけれど、「さよなら」じゃなくて、「また会おう」と言うこと、まとも言い合えた人のことは忘れない思い出になるし、「まとも会える」と思えるんだと思います。最後、亮平がお母さんにまとも「また会おう」と言ったと思います。「また会おう」は温かい言葉だと思います。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

最初は、心の無かった和也だ。たけし、たけさんの温かい人に出会ったことにより、とても心のある青年に変われたと思います。助けてくれた方も、冷たいなと感じていましたが、和也のために体を張ってくれるだけで、すごいなと思いました。登場人物の中でも特にすごいなと思ったのは、柳下さんでした。柳下は、かんでありながら、死にそうになるまで和也を助けてくれました。柳下さんが和也から一目をうばったときには、すごいおどろきました。でも、それも柳下さんの優しさであることに気付いたときには、とても心が熱くなりました。全く顔も知らない赤の他人を助けてくれる方のとてもな心、とてもな勇気・決意を私も見習いたいなと思いました。私もいつかたけさんの人に支えられているというのを、改めて実感することができたい。皆の姿はとても格好良かったです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

1人の力では、どうしようもできないことがこの世の中にあります。そんな時に、赤の他人の人でも、力になってくれる人がたくさんいます。温かい気持ちにめぐまれてる人も、やさしさがうつつていきました。素晴らしいなあと思いました。人生は、長い旅です。その中で主人公は、自分自身です。人生は、自由に生きること大切だと感じました。人のために色々な事をしてつくす人は、すごいです。人にやさしくすれば、相手も幸せな気持ちになれて、自分も、本当の自分になれます。生かしてもらおう、泊めさしてもらおう、自分がなにげなくやしている事が相手の人生や心を変えるきっかけになるかもしれません。私も、人に助けられたら、心から感謝し、困ったら、全力で向き合おうようにしたいです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

人生には、たくさんの出会いがあり、いろいろな出会い方が、あるんだなと改めて感じられる。映画でした。また、この映画では、生きるために知っておくことなども、分かることができました。人への感謝の気持ち、信頼など大セクだなと感じられました。映画を見て私は「自分の人生の主人公は自分なり、自分で決められる。それが自由」という言葉が出てきました。その言葉は、すごく私の心に響きました。「自由」といっても、自分の好きなことをやりただけやるのではなく、人の気持ちまで考え、自分の意見も言うことができる。というのは、大セクだなと思いました。がんばりたいのであ。 =れから。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

私は今回この作品を見て、人とのつながりは大切だなと思いました。「さよなら。」と言われるより、「また必ず会おう。」と言われたほうが、何か希望をもてるというか、すがすがしい感じになります。主人公の人は、友達についてうそからすべてが始まりますか、それで良かったのだと思います。私たちは今、何事もなく幸せに暮らしていますが、この時も何かじじょうをもっている人がたくさんいます。その人たちに出会うことで、主人公は、旅をする前とは違い、自分をいつわるのではなく、ありのままの自分でいいのだとわかったと思います。私も主人公のように素直に自分と向き合うことができるといいなと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

かずやがいろいろな人に来て、感情が変わっていったのが分かった。友達にうそをつき、親にもうそをつき、うそをついたらおとにげていなければいけない気がした。なにごとにも全カでやる。どんなにきらいでいやな人でも、おせわになっている人がいたら、その時を全カでかまはる。そういう事を学びました。いろいろな人が「また会おう」といっていました。それはかずやの心が変わっていき、そしてその変わった時をもう一度みたいという思いがこめられていると思います。かずやが教わったことを子どもたちに伝えていく。私は、かずやの生き方をみて、うそはついてしまふもの、だけど人を幸せにできるうそをつきたい。そしてどんな人でも全カで向き合いたいと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

「また必ず会おう」私は、これを聞いて、みんながた。なせなら、私は、そんなせたい会おうと思た、会えると思つた。でもこの映画を見て、主人公のひんたうそから初まり、金を取られるという、最悪な状態たたでも、とたろう、助けてくれて、いろんな事を教えてもらって、最後には、かならず「また会おう、必ず会おう」と、少し関わった。たたそれだけに、なんの関係もないのと思た。でもそれは、関わったからこそなんだと思ふ。そう、一緒にいこうと、これは、大事な言葉、人のつながりをもたせていたんじゃないかと思ふ。私は、今「また必ず会おう」と聞いて、私は、こう思う。人と人が関わり合い、別れる時、いつでもいい、また、関わって、こう、そして、これからのじんせいをつたのけよう、そうゆう意味がこもった、言葉なんだと思ふ。この言葉は、人の人生もかえるんだと思ひました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

私は、「和也」を自分とてらし合わせて見ていました。「和也」がいろいろな人と出会って、いろいろなけいけんをすることを、中学1年生の青春とてらし合わせていました。私達は、まだ中学生で幼いですが、成長していくにつれて「和也」のように、支え合って生きていくのを、学んでいくんだなと思いました。複雑な気持ちでも、人のことを考えて、行動にうつせる「和也」のようになりたいと思いました。周りの人たちも、「和也のことを考えて、「和也」を成長させるために、大変なことをさせたんだ」と思います。出会っていく人々どうしが支え合って高め合って、認めあって生きていくのが、私は一番良く、すばらしい生き方だと思います。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

私はこの映画を見て、自立することを学びました。主人公と同じように、今の生活が当たり前だと感じるのではなく、今こうやって生きていられるのは、自分を支えてくれる家族や友達、何かの縁で出会った人たちがいるからなんだと改めて思いました。今の私たちは、大人の子どもの中間、中学生です。どこからか、大人になるのだらうかと考えた時、この映画を見て「1人の人間として生きていける」つまり、自立した人のことではないかなと解しゃくしました。自立するといっても、もちろん人と支え合いながら生きていかなければなりません。何か良い事や助けてもらった、それが当たり前と思わずに、感謝の気持ちを忘れずに行動にうつすのが大切だと思いました。そんなことを、この映画から学びました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

主人公の和也がうそをついたことから始まり、たくさんの人に出会って和也の心情が徐々に変わっていくというストーリーの展開に目がはなせなくなりました。自分の居場所もわからず、うそばかりついていた和也が、柳下さんをはじめとする様々な人たちと出会っていくうちに、人としっかり向きあうことの大切さなどを知り、優しい心になっていく様子を見て、心がとても温まりました。和也が出会った人は、家族のことでも悩んでいる人が多く、和也もやはり家族としんげんに向きあっています。最後には家族とわかり合うシーンがあり、自分の家族が大切かということがよくわかり、これから大事にしていかなければならないと思いました。

人との関わりを大切にする、ということがよくもわかった。すばらしい映画でした。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

今回、青春ということで、さわやかな話かな、と思いましたが、け、こうシビアな現実をつきつけられていました。主人公のささいな嘘から始まった旅。少しミエをはりたくて、東京いったことある、といったけれど、最近の若者なら、まあ言いそうというレベルの小さな嘘でした。主人公の性格も、今の若者にありがちな「人に言われたことだけやる」、「無関心」といった感じ。周りの人にあわせては、かりと、たところも、今の若者っぽい。出会った人々も、私の目から見ると、「優しい」というよりも「厳しい」でした。始めは、冷たい人ばかりか、と思ったけれど、よく考えてみると、「怒る」よりも「しかる」、「甘い」よりも「優しい」。一見冷たく厳しい言葉も、第三者の目線から見ると、主人公のために言ってくれているのが分かります。まだ自分を変えられる年齢の主人公だから、あんなふうに言ってくれたんだと思います。また「自分づくりの続きである学生だからこそ、見てほしい」という大人の気持ちも、よく分かりました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

私はこれを観て「人の温かさ」と「ウソのこわさと大切さ」を感じました。この映画に出てくる人達はみんなさっぱりとした性格で「一見、こわい人だ」と思いましたが、どの人も深くつき合うとかくされていく優しさが出て「また会おう」と言ってくれていたのです。どんな人でも少しのつき合いだけで心まで決めてはいけなかったと思いました。もう一つこの映画で目立っていたのが「ウソ」でした。主人公の和世さんだけでなく、りょうへい君やそのお母さんまでウソをついていて、しかもその「ウソ」はすべて人のための「ウソ」でした。人をきずつけない、心配してほしいくない、そんな気持ちから出た「ウソ」はどれも大切ですが、「ウソ」は1度してしまったら止まらなくなってしまうので、後々人を傷つけてしまう可能性のあるウソは絶対しないようにしたいです。私も将来「また会おうね!」と言え合えるような人間関係をつくらたいです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

物語を通してまず最初に思ったことは嘘のつみかさねで生きていくことは、本当に大変で、やめたほうがいい、ということでした。劇中のはじめの方の和也を見ていると、嘘をつきながら生活していくのがつらそうだったので、こう思いました。和也が旅をすることになった飛行機に乗り遅れた後、泊めてもらった場面で、自分で帰ることを選んだ和也の決断力はすごいと思います。自分ならまず親に電話をかけ、そこから自力に戻るのはではなく、親に頼って行動していくと思います。このような和也の行動力の高さを見習いたいです。和也が家に帰るまでの残りの部分もみてみたいです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

まず「思うのが」この「良い映画を 出して今まで見たかったのだから」と思いました。「また必ず会おう」と誰もが言った」に出てくる言葉の中で、「自分から動く」や「笑えよのが人生」「信じる、いつか帰ってこい」などの言葉はどれも心にひびきました。「自分から動く」というのは、生徒会本部のスローガン「高城が竜の鬼を自分から、自分からに動かす」と思いました。私はほとんど毎日を過ごしていた、将来の夢が決まっています。でもこの映画を見て、自分も何か夢中になれるものや、将来の夢を見つけたらいいと思いました。「また必ず会おう」という言葉は「さようなら」より背中を押しつけてくれる。私も誰かとは出会い、別れる時は「また必ず会おう」といいました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

私はこの映画を見て思ったことは、「さようなら」ではなく「また必ず会おう」と
 言っている良さがわかりました。「また必ず会おう」と言ったら、今は別れを
 しようけれど、また必ず会えるということなので、そこに感動しました。主人公が
 嘘をいっただけで、嘘をつきかえして、追い込まれていたのに、
 嘘をつくのほかにないと思いました。トラックのおじさんが言った「自分自身
 が、主人だ」という言葉がすごくいいと思いました。相手か、悪かたかと思っ
 たか、自分が悪かたかと思っただけ。選択させるシーンが、すごく
 なってできました。母と子のシーンで、主人公は、最初るときとは
 ぜんぜんちがうのがあったので、すこいと思いました。人は成長す
 るんだなと思いました。最後主人公は、どうなったか気になりました
 たか、自分で、どうどうしてみたいなと思います!!

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

主人公が旅をして、たくさんの人々に出会い、成長していく姿がすてきだと
 思いました。旅で出会った人たちは、根っ底みんな優しく主人公を支えられて
 いくところが好きです。「また必ず会おう」と言い合った人とまた会ってい
 ればいいなと思います。きっと主人公は九州まで行くのに、またたくさん
 の人と出会い、また会う約束としていくんだろうと思います。それを見てみた
 いです。人は人に支えられて生きているというのはこのことなんだろうなと
 思いました。主人公は出会った人に助けられ、出会った人もまた主人公に助
 けられたのだと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

ぼくはこの映画を見て、1日をだらだら過ごしている自分にとっても刺激を受けました。この映画の主人公はぼくと同じで、何となく1日を過ごしていました。しかし、旅をしていく上で、多くの人と出会い、自分の何がダメなのか分かっていきました。何でも「人がやってくれるから」と思わず、しっかり自分で自分のやることに責任を持つことが大事だとわかりました。また、色々家庭に事情があってもがんばって生きている人もいれば、ぼくのようにおだな時間を過ごしている人もいます。自分はこれから自分のダメな所を直して、だらだら過ごさないようにしたいです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

人と別れるときは「さようなら」ではなく、「また会おう」と言えばよいことがわかった。和也はいろんな人に会うことにより、いろんなことが成長していったと思います。いろんな人にお世話になって、お世言合をされたら、必ず感謝をしなければいけないんだと思います。それは見返りを求めずに、いつわりのない感謝が大らかなんだと思います。また、和也はなにがある嘘をついて人のせいにしていましたが、正直に伝えることで信じられる人もいるんだと思います。また、和也のように物を届けたり、人をつれていったりとよいことをすると必ずそれが返ってくると思います。私もよいことをされたら感謝をして見返しをし、日ごとから人を助けることができるようなよいことをしていきたいです。そして決して嘘はつかず正直に生きていきたいです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

この映画を見て思、たニヒビビの人(会った人)も恐くて厳しいトドケビ本当はやさしいトド思いました。和也は初めはうそばかりついて現実から逃げていたけれど柳下さんに出会ってから和也は変わっていくトニろが好きです。親・友達にうそをつき生きていた和也が最後は親にしっかりと信実を話してお父さんが和也を信じてくれるのがかっこよかったであうそをついて生きているけれどうそをついて生きるのはやっぱりつらいと思た。うそをつかないと生きていけないトバガリだったけどつらい思いをして生きていくのはつらいと思いました。出会ったトはみんなやさしくてそのトたちにたくさんを教えてもらっていくうちに和也は変わっていったんだと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

私はこの映画を見て、主人公が大人の階段をのぼって、ちがうとちがう成長していったなと思いました。出会った人すべての人が「さよなら」ではなく「また会おう」と言っているのを私は、すばらしいなと思いました。人と人のつながりがそこでもまた一つ生まれるからです。主人公が東京にいた時と岐阜にいた時では、ちがう点がいっつかあったなと思いました。自分と人とのつながりを大切にしていましたし、東京にいたときよりも大人っぽくなったなと思いました。とにかくこの映画を見て思ったことは人同士のつながりの大切さです。人は一人では生きていけないことを知ったので、自分と人とのつながりをこれから先大事にしたいです。そして、人と支え合いながら生きていきます。生きることの大切さをもっと、理解しながらこれから先生きていきたいと思います。もっと、仲間を大切にすれば人とのつながりができると思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

学校の友達への軽い『うそ』のせいでどんどん『うそ』がふくりんでしまった主人公だったけれど色々な人と出会って成長しているところを見れたような感じがしました。この映画に出てくる人は口が少し悪くてトゲトゲしているカニジだなと始めは思ったけれど中身は優しくとても良い人たちだなと思いました。見ていてまるで自分が主人公の立場になったような感じがしました。また、出会った人達が「また必ず会おう」と言っていたけれど、オジクビが温まる言葉だなと思いました。「サヨナラ」という言葉はもう会えない人に送る言葉かもしれないけれど、「また必ず会おう」という言葉だったらここからがスタートと思えるからです。そんな言葉可言える人達はカッコイイなと思いました。私はこの映画を見て出会った人を動かせるのだなと、見れてよかったなと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

「人に合わせることに命をかけていた」和也が最後の最後で「『また必ず会おう』って言えばいい」と言っていたところから、和也が人と人を通って成長した瞬間だな、と思いました。というよりもそもそも嘘つくくらい見栄はるのやめろよ、とも思いました。でも、やっぱり人間だから、そんな風にしちゃうのはある程度しょうがないことだし、それよりもそういう経験を通して何か心から得られるものがあったら一番いいんじゃないかと思いました。和也が会った人全員が「またどこかで会おう」と言っていました。この言葉はとても魅力的な言葉だと思いました。「サヨウナラ」というよりも「またどこかで会おう」の方が悲しみがあふれないと思ったからです。この映画を通して、「またどこかで会おう」という言葉の重みを知ったような気がしました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

最初の和也と最後の和也に見せかけない、はっきりとは見えない変化があったなあと思いました。色々な人と出会い、自然に角触れあうことで、人って、少しずつ変わっていくたなあって思いました。それは、本当に小さな変化だけと、それによって自分の未来は大きく変わるのかなと思いました。最初は流されてばかりの、小さな和也だけと、出会った人たちによって、少しずつ変わっていったし、それは和也と出会った、和也を変えた人も同じだと思っています。その人たちが、和也と出会うことで、変わったこともたくさんあったと思います。人と人の出会いやつながりはいろんなことを生むし、人は、自分以外の何かによって変わることがあるのかなと思いました。だから、ちょっとした人との出会いも、自分の中の何かを変えろと思って、大切にしないといけないと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

主人公の和也は最初、ウリで人生をぬりかためていたけど、いろいろな人たちと出会う中で自分の意思をしっかりと持つようになって良かったなと思いました。柳下さんは口は悪いけど根は本当に良い人なんだなと感じました。柳下さんの言葉から、自分のことは自分で責任を持たなければダメで、そうすることこそが「自由」だということがわかりました。和也は最後に「さようなら」ではなく「また必ず会おう」と言えはいいと言いました。この言葉は和也が旅の間で成長したことが感じられる言葉だと思いました。和也の気持ちには共感できました。「ウリをついているつまらない人間だ」と言われ、最初は素直に受け入れることができなかったけど、それを受け入れることで、本当に成長できるんだと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

なにげないウリ外、和也が出会った人達に人生を変えられたのはすごいなと思いました。和也はみんなの中に入れてもらえるようにウリをついたりしているのは、僕も小学校の時、やったこと外あった思い出しました。それに、和也は助けてもらった人には、お礼をされることをして、人を助けたら、手伝ったりするのはとてもいい事だなと思いました。死外近い人でも、「また必ず会おう」と言いひっくりしたけれど、「さようなら」の一言は、相手にさびしい思いをさせてしまうから、「また必ず会おう」と言っただんじりないかなと思いました。この映画を見て、ウリは人生をおおきく変えてしまうものだと思うので、僕は、なるべくウリはつきたくないなと思いました。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

人が周りの人の目を気にしてウヤをすることはあると思う。でもそれが普通だと思えば続けられなく、「^{ウヤ}偽りの自分」に自分も慣れちゃいけない気がして苦しくなってしまうと思う。人の目がうつらと自分か思っていることはウヤをつかか、しんがりと言わなければならない。

物語の中で、様々なたとえでいっているが、みんな和也のつらさを思い、目やけでいい感じにして、私達のために初めて会った人を車に乗せたり、色んな話したりしながら生きていく。和也の周りの人が助けたからたからつと和也は旅をすることになったのだと思います。

映画の中で、自分のためだけじゃなくて周りの人のために働いたり、生き残るのを見て私はまだまだ一生懸命に生きていたんだと思う。1回切り的人生なので、そのために後悔するけれど、やっぱり後悔した方がいいと思うので、チャレンジをたくさんしていきたくて思っています。この映画で学んだことは、あったらよかったと思ったり。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

主人公がお金を取られてしまい、飛行機にも乗り遅れて途方に暮れ困ってしまった。誰かが必ず彼を助けてくれて、1人ではなく何人も人が助けてくれていていい人は「かりた」なと思いました。

主人公と出会った人、みんな良いことを言っていて、自分にも言い聞かせていました。私が一番良かったと思ったシーンは、デコトラの運転手と出会ったのが一番良いと思いました。出会い方は、ちょっとありえない感じだったけど、その主人公はデコトラの運転手と出会って大きく変わったのではないかなと思いました。何をやるにしても、見返りを求めてはいけなし、何かをしてもらう時は、それをもらうのか「あたりまえと思わないで」と丁寧に小さなことで感謝しようと思いました。学校などでも人の意見ばかりに合わせていたい自分の意見もしっかり言えるようにしたいです。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

正直、映画の内容はちゃんと理解できていなかった。

けれど、人との出会いはいくらも大切なことだと思った。

お金もない、たいてい使えぬわけでもない和也に

人はなぜお金や自転車、いろんなものを与えてくれるのだろう。

それは、みんな和也に何かの可能性を感じてからでは
ないかと思った。

和也は出会った人にもらったものを通して、また新たな人
に出会った。

和也によくしてくる人たちは、とても優しい人たちだ。
私も人との出会いを大切にしたい。

『「また必ず会おう」と誰もが言った。』を見て

高校生や中学生の時によくある、周りに川をあわせるそとと
何かスッキリした感じがすると思っただ。

あまりわからない地に行き、家に帰れなくなったのに泊れなくて
いって帰る人のあたたかさと同時に社会での評価や常識
を教えてくれる厳しさというのが何となくだけど、わかった
気がします。

人生の先輩という言葉が印象にとて残っています。

大人は僕達が知らない社会というものを知っていて、そこ
ではうそは通用しない。人のために尽くすことが大事という
ことを教えてくれたのだと思います。

この映画を見て、まさに及んばだなと思いました。

自分も社会に出て、いろんなものにぶつかっていくけど周りの人達に
支えられて、じいじに成長していくと思いました。